

BDHQ の回答チェックの基本的な考え方

チェックの質が結果を左右します





■お願い

BDHQ の特長のひとつが回答しやすいことですが、それでも回答の漏れ(欠損)や非論理値(常識的に考えてありえない回答)があります。回答後に質問票を回収したときに、これらをチェックし、再回答をお願いすることは、結果を大きく左右します。

BDHQ のチェックの基本的な考え方と注意点について説明します。

■求めるデータの質(レベル)とチェックレベルの関係

基本的には次図のようになります。

求めるレベルと回答チェックの方針		チェックや再回答が必要なのは...
	低レベル	チェックや再回答がほとんどできない場合
	中レベル	チェックや再回答はできるができるだけ避けたい場合
	高レベル	チェックや再回答ができ、できるだけ正確な結果を得たい場合
	最高レベル	もっとも正確な結果を得たい場合

(空白) = 空白だったらもう一度尋ねる、(内容) = 内容に疑問があったらもう一度尋ねる。

状況に応じて、チェックや再回答(再アセスメント)をどこまで行なうかをあらかじめ決めておきましょう。「簡単に」は「精度の悪い結果」となり、けっきょく、自分のためにも対象者のためにもならないことをよく考えてください。

小さな回答のミスがたくさん重なると大きな結果のずれになります。ここにあがっていない質問項目でも複数(たとえば5個以上)空白やありえないと考えられる回答がある場合は、再回答をお願いするほうがよいと思われます。

BDHQ では、ていねいなチェックと再調査(再質問)を強くお勧めしています

■注意ポイントの理由

注意したいポイントの理由を簡単に説明しておきます。

・ID・・・ BDHQ は個人識別を3つのIDで行います。ID1がメインIDです。必須です。絶対に誤りのない(他の人のIDとまちがえない)ように細心の注意を払ってください。ID2とID3は補助IDです。必要に応じて使っ

てください。不必要な場合は欠損(空白)でかまいません。これら3つのIDは原則的に数値しか使えません。
・生年月日・調査年月日・・・年齢を計算します。年齢がないと個人結果帳票を作ることができません。両方とも少しずれるのは大きな支障にならない場合があります(年齢が1歳ずれてもだいじょうぶと考える場合)。その場合でも、欠損ではなく、なんらかの期日を回答してください(例:全員の生年月日に9月15日を入れるなど)。なお、欠損でも栄養価(摂取量)計算結果には影響しません。

・身長・体重・・・肥満度(BMI)を計算します。欠損でも栄養価(摂取量)計算結果には影響しません。

・ごはんの杯数・・・もっとも重要な質問です。欠損か否かだけでなく、ありえない回答になっていないか(運動選手ではないのに「1日4杯以上」など)を確認します。

・みそ汁の杯数・・・重要な質問です。欠損か否かだけでなく、めったにありえないような回答になっていないか(「1日6杯以上」など)を確認します。

・お酒の頻度・・・お酒の種類別の質問が回答されていても、この質問が欠損や非論理値の場合、お酒(アルコール)の回答は出ないか著しく信頼度の低い結果が出てしまいます。

・4 ページめの質問・・・調理法や調味料の使い方についての質問が並んでいます。これらの情報を利用して、調味料の摂取量を推定したり、主食や主菜・副菜の重量を調節したりしています。それぞれの質問が全体に及ぼす影響は小さいですが、欠損値やありえない回答が複数ある、結果の信頼度を大きく妨げてしまうことがあります。

■入力方法別の注意点

・OCR入力・・・OCRの機械が誤りなく読み取れるような記入方法であることが重要です。二重回答はないか、機械が読み取れないほど薄い回答はないか、などです。

・手入力・・・チェック者と入力者がちがう場合があります。入力者が迷わず入力できるように配慮したいものです。

■欠損値処理

・欠損値は欠損値(空白)として入力されます(入力します)。これは、粗データは回答者が答えたまま(そのまま)を保存するのがよいと考えているためです。すなわち、この時点では欠損値処理はしません。

・栄養価計算を行うときに、欠損値をあらかじめ決めてある回答に読み替えて栄養価計算をします。欠損値処理の方法は、【BDHQの栄養価計算における欠損値処理方法】をご覧ください。

【以上】

この内容は予定なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。